

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
（分担）研究報告書

（H22 3次がん 一般 043）
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の運用と構築
食道癌JNCDB、食道癌登録

研究分担者 日月 裕司
国立がん研究センター中央病院 消化管腫瘍科 科長

研究要旨

日本食道学会食道癌全国登録のデータとJASTROの食道癌症例の放射線治療のデータを含む、食道癌についてのNational Cancer Databaseを構築する方法を検討した。HASH化技術を利用して個人情報連結不可能匿名化し、IT技術を活用した全国食道がん登録用ファイルを作成した。2005年と2006年の2年分の症例の登録の報告書を日本食道学会会員に配布し、日本食道学会英文学会誌「Esophagus」に掲載した。治療内容の経年変化に対応したデータの集計が可能となるようタイム・ラグを縮めるため、対象年を2007年と2008年の2年分とし、登録を2013年7月に開始し、12月に終了。2014年1月より解析を行い、報告書を作成中である。

A．研究目的

食道癌の治療では外科切除のみならず内視鏡治療、化学療法、放射線療法を含めた集学的治療戦略が中心となっている。その実態を把握することは、総合治療戦略の早期確立のために極めて重要な課題である。わが国における食道癌の診断、治療、成績を総合的に把握するために、外科切除症例を中心に進められてきた食道癌全国登録のデータを外科切除のみならず、内視鏡治療、化学療法、放射線療法を含めたものに発展させるとともに、放射線治療症例を対象として行なわれてきたJASTROの食道癌症例のデータとの互換性を確保し、わが国における食道癌のNational Cancer Databaseを構築する方法を検討する。がんの診療科データベースとの連携を進めることで、National Cancer Databaseの構築に貢献する。

B．研究方法

IT技術を活用した全国食道がん登録システムを作成した。その後、内視鏡治療、化学療法、放射線療法の項目を充実させるとともに改良を加えながら、症例の登録・集計・解析を行ってきた。登録精度の向上のため、必須項目の未入力を防ぐシステムを導入した。UICCのTNM分類第6版・第7版に基づくデータを示せるように、UICCのTNM分類の項目を追加した。UICCのTNM分類の次期改訂にむけて、日本からの提案の根拠となるデータを得るために、リンパ節部位ごとの転移のデータを集計した。

（倫理面への配慮）

個人情報保護法に対する対応のため、個人情報を連結不可能匿名化して登録する方法としてHASH化技術を利用した登録法を開発し使用した。

C．研究結果

2005年と2006年の2年分の症例の登録を2013年1月に集計、3月に解析開始し、7月に報告書を日本食道学会の会員に配布し、日本食道学会英文学会誌「Esophagus」に掲載した。経年変化に対応したデータの集計が可能となるようタイム・ラグを縮めるため、2013年の登録でも対象年を2007年と2008年の2年分とし、2013年7月に開始し、12月に終了。2014年1月より解析中である。「Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan」として英文報告書を作成し、2014年7月の日本食道学会で会員に配布するとともに、抜粋を日本食道学会英文学会誌「Esophagus」に掲載予定である。

2001,2002年,2003年の登録データを使って、鎖骨上リンパ節転移症例の予後を解析し、ISW2013(国際外科週間 2013)とIASLC(世界肺癌学会)Staging Committeeで発表した。内容をThe Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgeryに投稿し、掲載予定である。

2001,2002年,2003年の登録データを使って、リンパ節部位ごとの転移のデータを集計し、日本食道学会「食道癌取扱い規約」の改訂案の資料とした。

D．考察

今後は診療科データベースと全国登録の連携をもとに、院内がん登録、地域がん登録とのデータ共有を進め、食道癌診療についてのわが国におけるJapanese National Cancer Database (JNCDB)を構築し、情報発信を行う。対象年のタイム・ラグを縮め、治療内容の経年変化を把握できるようにする。UICCのTNM分類第6版・第7版の項目を追加し、国際比較可能なデータを示せるようにする。「食道癌取扱い規約」の改訂案の根拠となるデータを得られるようにする。